

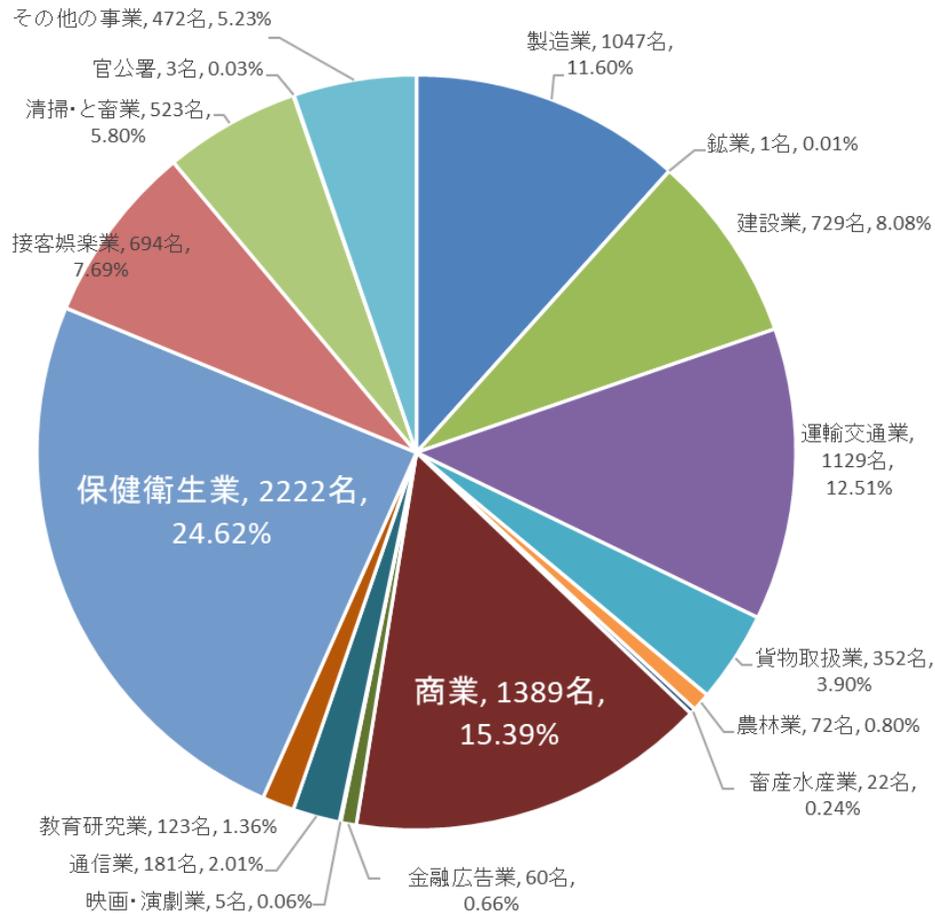
社会福祉施設における 災害発生状況等について

神奈川県労働局労働基準部健康課（+ Safe協議会）

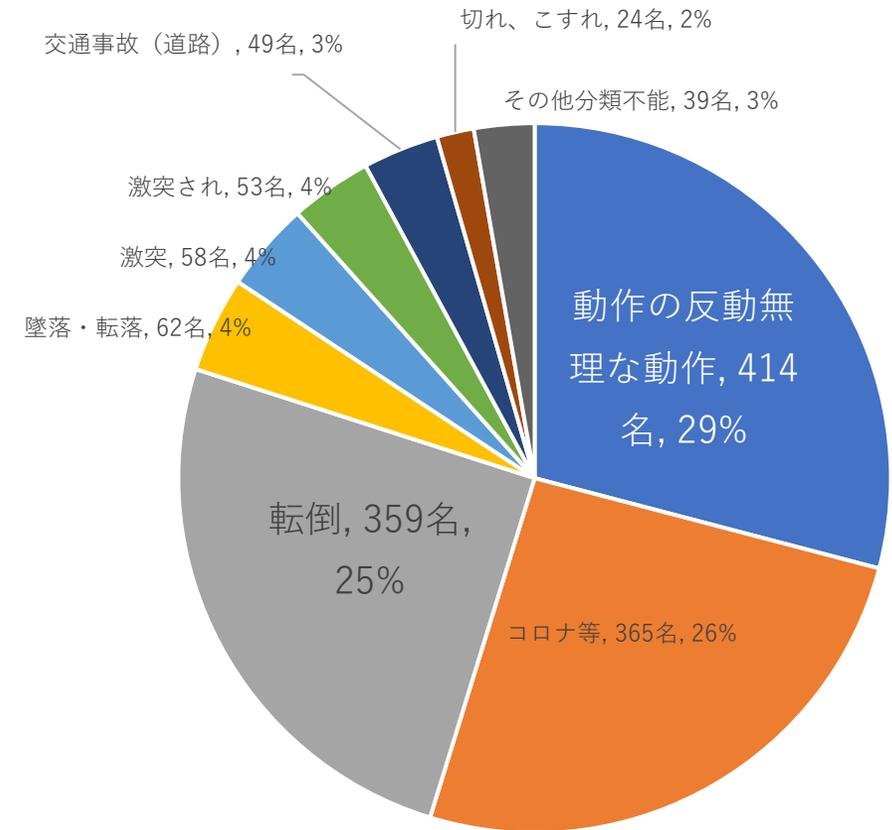
労働基準監督官 坂間洸之

令和6年災害発生状況

全業種



社会福祉施設



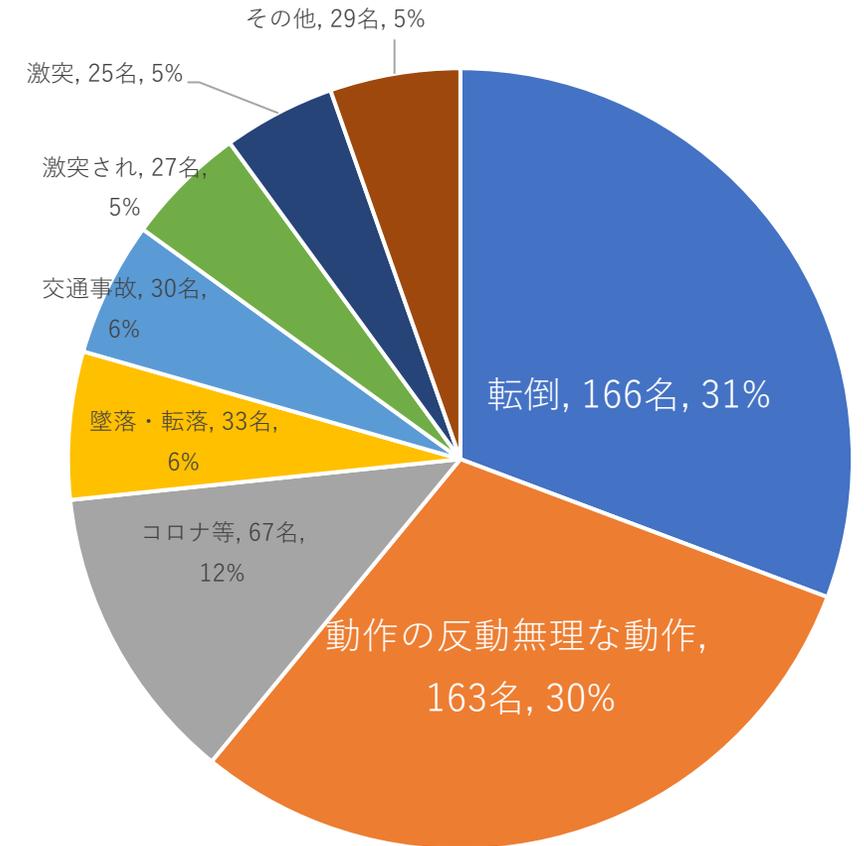
→全業種では製造業や建設業よりも保健衛生業や商業の割合が高い。また社会福祉施設では「コロナ等」を除くと「動作の反動無理な動作」と「転倒」が多い。

令和7年災害発生状況（社会福祉施設）

令和7年7月末時点の社会福祉施設における、労働災害の発生状況について、合計540名。内訳は右のグラフのとおり。

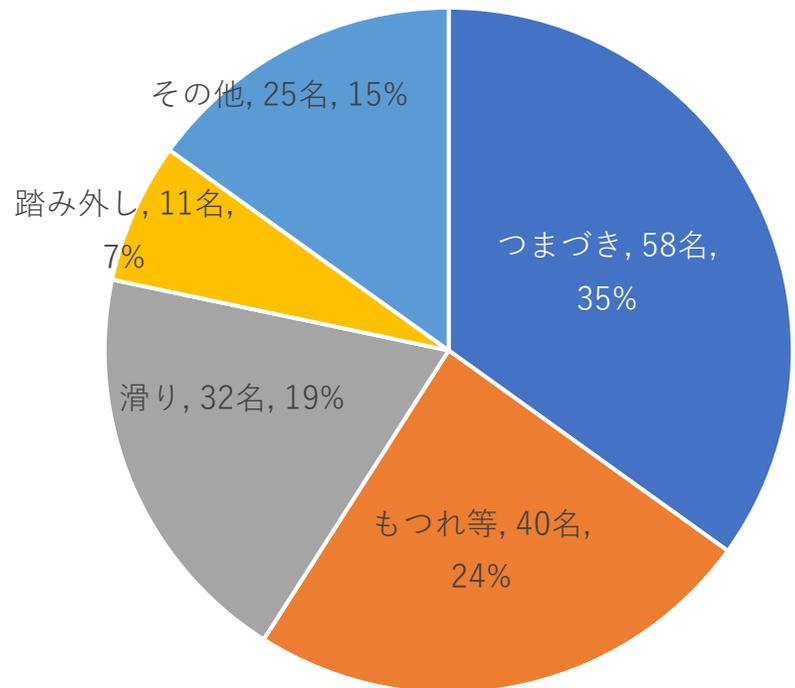
事故の型別の発生状況について、「転倒」が最も多く全体の31%、次に「動作の反動・無理な動作（腰痛、転倒もどき等）」が30%でほぼ同程度の件数を占めている。転倒災害と腰痛災害を併せて、全体の約6割を占める。

⇒労働災害の発生を減少させるには特に転倒・腰痛災害防止に重点を置くことが必要不可欠。

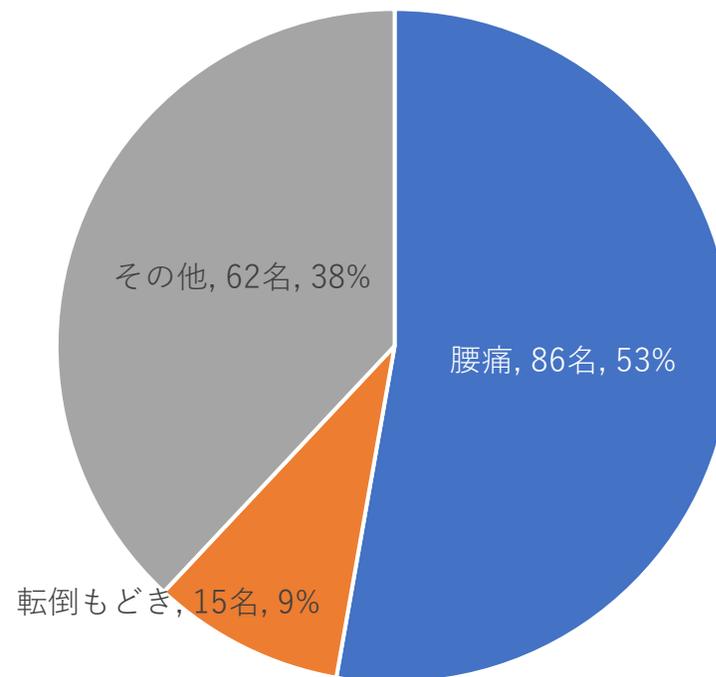


社会福祉施設における転倒・腰痛災害発生状況

転倒災害

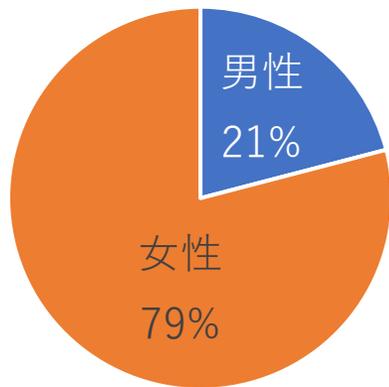


動作の反動・無理な動作

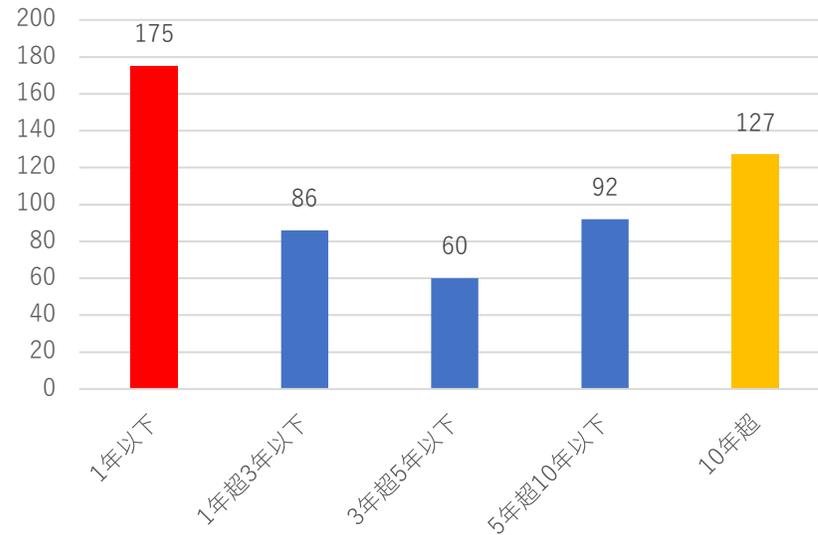


男女別・経験期間別・年齢別の発生状況

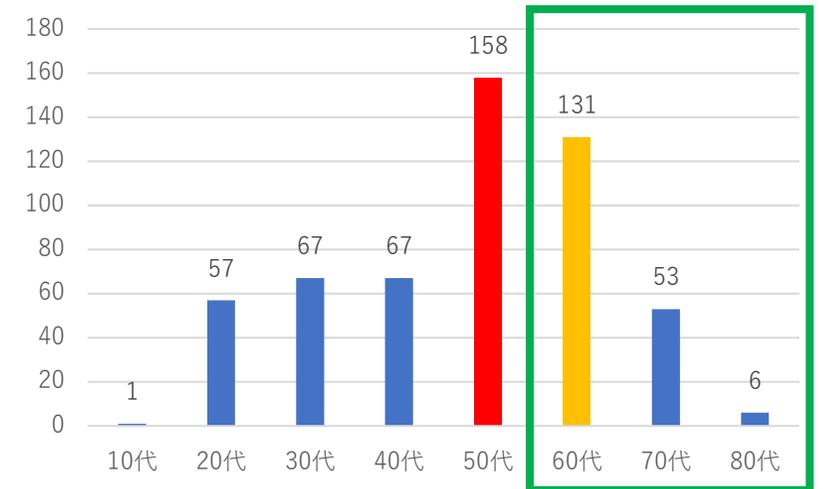
①男女別



②経験期間別分布



③年齢別分布



身体状況に配慮した対策が必要

①男女別では女性が約8割を占める。

②経験期間別では1年以下が最も多く、次に10年超が多い。

⇒安全衛生教育の定期的な実施が必要

③年齢別では50代が最も大きい割合を占める。次に60代が多い。また、60歳以上の高年齢労働者が全体の約35%を占める。

⇒高年齢労働者に対する取り組みが必要（エイジフレンドリーガイドラインに基づく取り組み）

災害発生事例

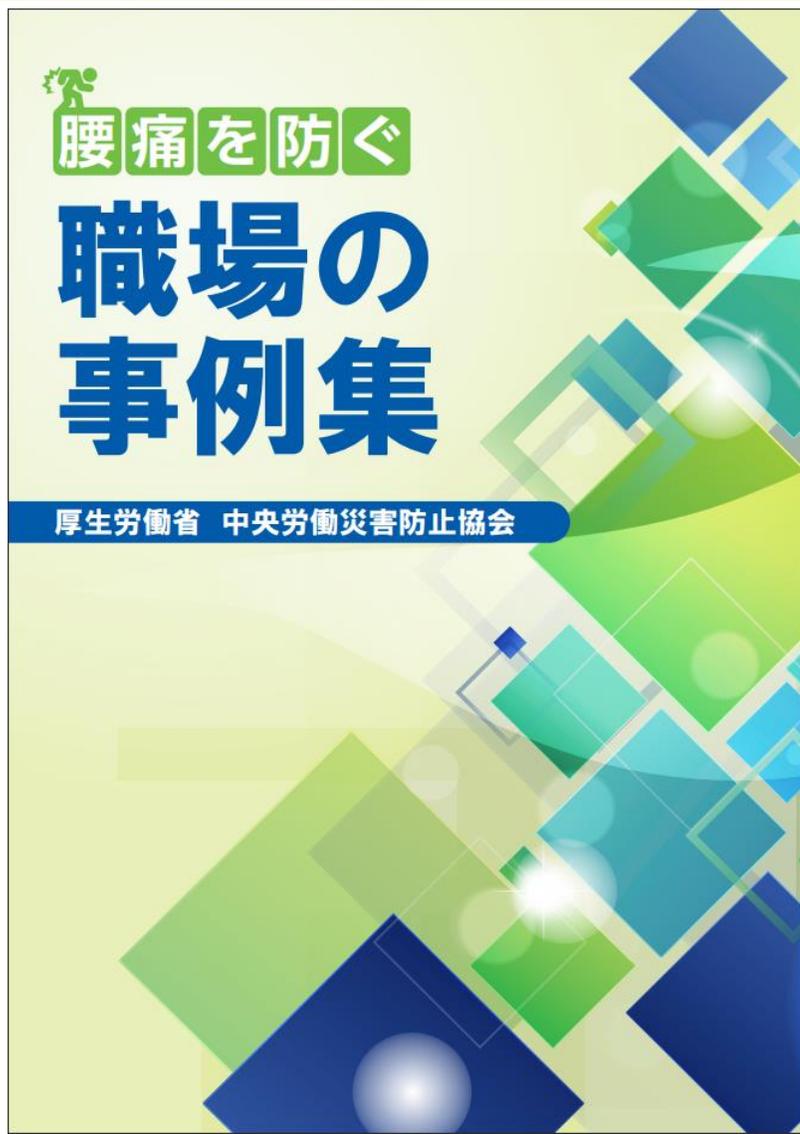
- 腰痛災害は車いす⇔ベッドの移乗作業中、入浴介助中など利用者を持ち上げる作業時に多発している。
(利用者の体重を支え切れなかった、利用者が急に体制を崩したため支え切れなかった、など)
→ノーリフトケアの推進、福祉用具の導入、腰痛に関する教育の実施など
- 転倒災害は、入浴介助場面で多発。
(水濡れによるすべりに注意)
→滑りにくい靴による改善、床面を滑りにくくするなど
- つまづきによる転倒災害では電動ベッドのコードに足を引っかけて転倒する災害も見られた。

災害発生を防止するための取り組み

- 労働災害防止に対する基本的な取り組みの継続的な実施が重要
 - 経営（施設）トップの表明
 - 安全衛生教育の実施
 - 施設の改善（段差の改善、滑り止めの設置、福祉用具の導入）
 - 他社の好事例をマネしてみる
- 今年10月6日に、転倒・腰痛予防大会を関内ホールにて開催します。早稲田大学澤田先生による講演の他、SAFEアワード受賞企業2社の取り組み事例集の発表が行われます。ぜひご参加ください。（リーフレット）



「腰痛を防ぐ 職場の事例集」の紹介



1. 事例集の使い方

この事例集では、小売、介護・看護の職場で腰への負担を減らした100以上の事例の成果、内容、きっかけをまとめたものです。

次の2. 事例集目次にあるタイトルから気になる事例を見つけ、事例を確認してください。
巻末には、参考情報もありますので、腰痛予防にお役立てください。

取組の成果

取組の内容

取組のきっかけ

費用の目安
数千円
数万円
数十万円
数百万円

注)ノーリフトケア/ノーリフティングケア：事例のタイトルや成果では、便宜上ノーリフトケアと表示している。

その他保健衛生業に関する腰痛予防対策はこちら⇒

